

令和元年度（平成31年度）

学校関係者評価報告書

学校法人 平野学園

ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校

学校関係者評価委員会

1. 日 時：令和2年3月5日（木）15時～16時00分

2. 会 場：ミーム館5階会議室

3. 委員名簿：

名 前	所 属	任 期	種別
青木 伸晃	株式会社トーカイ・アピ ア 取締役専務	平成31年3月～令和3年3月（2年）	卒業生
石原 傳也	株式会社オブリ 代表取締 役	平成31年3月～令和3年3月（2年）	元保護者会 長
大角 勇雄	大垣タクシー株式会社 代 表取締役	平成31年3月～令和3年3月（2年）	学校評議員

学校側参加者：校長 平野 宏司、副校長 岡本 春信、ファッション科主任 久保田百合子
情報デザイン科主任 西村 佳子

4. 学校が設定する評価項目説明（自己評価結果等）

（1）教育理念・目的・育成人材等 ふれずに理念を追求している。

○ファッション科：

衣服の企画、製造、流通など、将来、アパレル産業で活躍できる専門家を養成する。被服関連の企画（マーチャンダイジング、デザイン）、設計・製造（裁断、縫製、型紙製作）、販売（販売、店舗運営、店舗管理）などで要求される専門的知識を学習する。

○情報デザイン科：

ソフトウェアやコンテンツの開発、販売、サービスに関わる情報サービス産業や業務用ビジネスソフトを使用する企業で活躍できる社会人を養成する。実社会に即した専門の知識・技能を習得するとともに、一般教養を高めるために商業実務および文化教養に関する教育を行う。

（2）学校運営

ア ファッション科：

- ・修業年限 2年、全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1960 時間、56 単位
- ・学生数 1年生2人、2年生3人

イ 情報デザイン科：

- ・修業年限2年、全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1960 時間、56 単位
- ・学生数 1年生7人、2年生2人

（3）教育活動

ア シラバス

（4）教育成果

ア 資格・検定

イ コンテスト入賞状況：例年通り、入賞している。

（5）学生支援

○クラス担任制、個人面談や家庭訪問、保証人（保護者）・学生・担任による三者面談を行う。不

登校傾向のある生徒にカウンセラーによるカウンセリングを実施する。

イ 就職指導：就職ガイダンス、ハローワーク訪問、礼法指導、企業研究、進路個別面談により就職指導と就職活動支援を行う。

ウ 今年度の就職率：ファッション科 100%（1人進学）情報デザイン科 50%

（6）教育環境 新校舎を建設した。

ア 学校行事：研修旅行（東京・横浜）・学園祭・大垣ファッションフェスティバル

（7）学生募集と受入れ 留学生受け入れに尽力した。

○ファッション科：日本人2人、留学生20人入学

○情報デザイン科：日本人4人、留学生16人入学

（8）財務 良好

（9）法令等の遵守 良好

（10）社会貢献

○ファッション科：NHK大河ドラマ「麒麟がくる」衣装作成

○情報デザイン科：交通安全運動、小学生プログラミング教室支援

5 評価会議に基づく学校評価

評価基準				
適切	4	ほぼ適切	3	やや不適切 2 不適切 1

1	教育理念・目標 育成人材等	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
2	学校運営	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。人事、給与に関する規定等は整備されているか。業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。教育活動等に関する情報公開が適切にされているか。情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3
3	教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 キャリア教育・実践的な職業活動の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3

4	教育成果	就職率の向上・資格取得の向上・退学率の低減が図られているか。 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3
5	学生支援	就職に関する支援体制・学生相談に関する体制・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 保護者と適切に連携しているか。 卒業生への支援体制はあるか。 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3
6	教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 防災に対する体制は整備されているか。	3
7	学生募集と受入れ	学生募集活動は、適正に行われているか。 学納金は妥当なものとなっているか。	3
8	財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 財政について会計監査が適正に行われているか。	4
9	法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 自己評価の実施と問題点の改善し自己評価結果を公開しているか。	4
10	社会貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。 地域に対する公開講座・教育訓練積極的に実施しているか。	3

6. 評価委員からの意見・提言

○留学生を入学させることは、時代のニーズに対応している。良い方向である。日本や母国で活躍してもらえ人材を育成してほしい。

○日本語の教育はよいことで、企業では微妙なニュアンスを伝えるために通訳を使っているが、学生のうちにしっかり学んでほしい。宗教的な問題も出てくると思うので対処すること。国同士で派閥を作るので、「日本式」になじませてほしい。

○日本の職場が外国人にとって働きやすい職場になるように企業が努力しているのと同様に、学

校でも過ごしやすい環境を作ってほしい。

○企業として外国人を受け入れる大変さを経験しているので、企業として力になることができれば、協力したい。

○住まいはどうなっているか。ある日突然いなくなることがある。しっかりしたフォローをすることが大切である。

○スポーツ活動をするとよい。自分も母校がスポーツで有名になったが、スポーツはコミュニケーションをとりやすい。スポーツで伸びると学生集めがしやすい。

7 まとめ

留学生に対して法令遵守や生活環境を自ら整えてもらうために「奨学金」を考えている。
専門学校の中でも「学生サポート No1」を目指す、という気持ちで受け入れていく。「サポート」はそれぞれの学生が「自立をする」ために行うものである。